

愛媛県教育研究大会の研究推進について

教育研究局研究部

I 大会主題

『子どもが変わる教育の推進』

～主体的・対話的で深い学びに向かう授業の創造～

II 主題設定の理由

愛媛県教育研究協議会は、結成当初から時の教育課題の解決に向けて真摯に取り組み、愛媛県教育研究大会においてその取組の成果を共有してきた。平成 14 年度（第 7 期）以降は、「生きる力を育む教育の創造」を大会主題とし、3 年サイクルでの実践研究を積み重ねてきたが、以下の課題への対応が迫られている。

1 社会からの要請課題

現在、デジタル化やグローバル化、技術革新などの大きな社会変革が急速に進展しており、学校においては、社会と共有・連携して、子ども一人一人が未来を切り拓いていくために必要な資質・能力を育成することが求められる。

2 学習指導要領からの要請課題

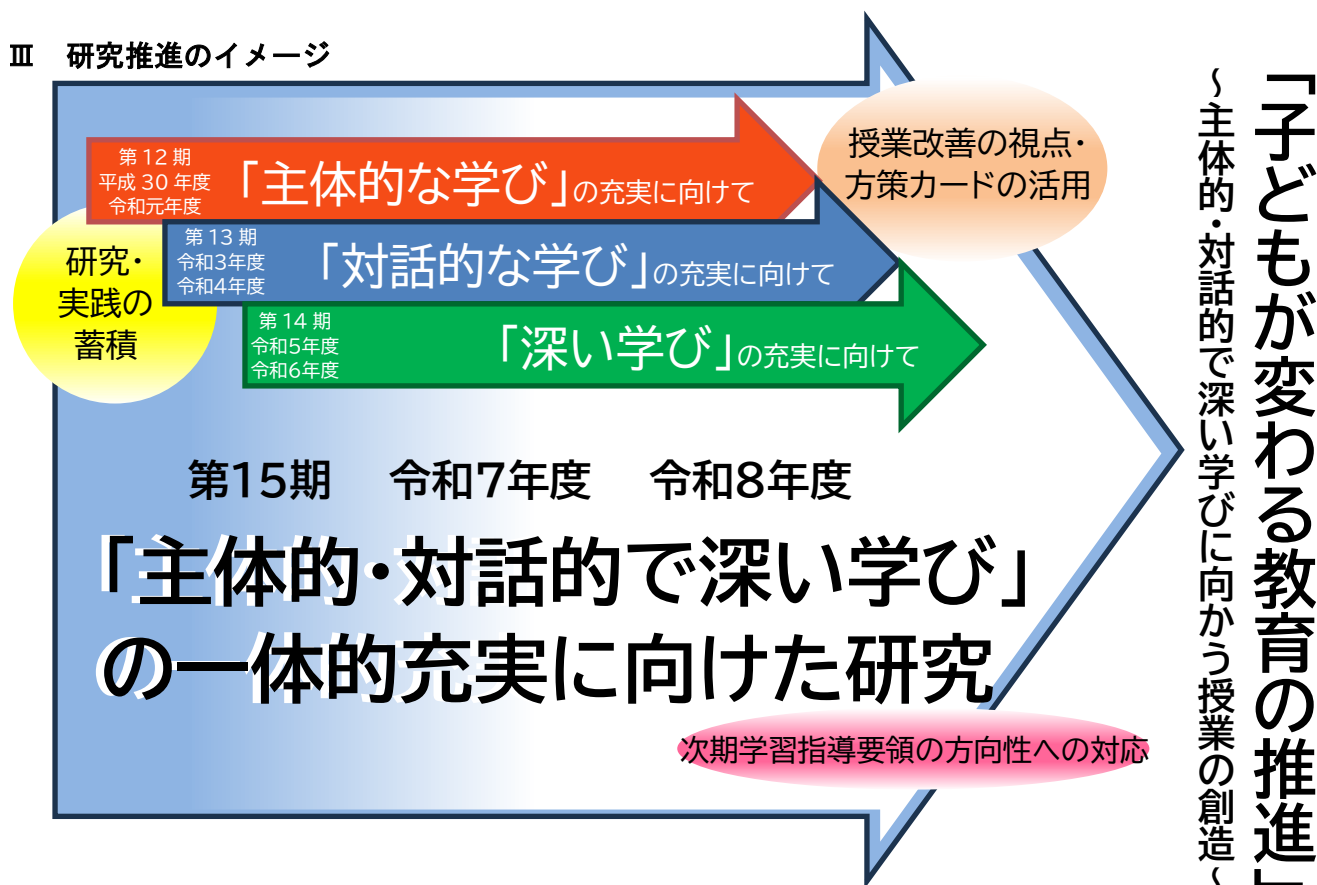
学習指導要領で示された「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの資質・能力を育成するために、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が求められる。

3 教職員の実態からの要請課題

現在、少子化による学校数の減少及び大量退職と定年延長、若者の教職ばなれ、働き方改革の推進などにより、教職員の組織構成や研究・研修の在り方が大きく変化し始めており、本県が培ってきた「同僚性を基にした良き教師文化」の確実な継承が求められる。

愛教研では、このような要請課題を踏まえ、研究主題を「子どもが変わる教育の推進」とし、学習指導要領の核とも言える「主体的・対話的で深い学び」に視点を当て、3 期 6 か年を掛けて、学習過程の質的な改善を図るための研究実践を積み重ねてきた。今後は、これまでの研究の成果を生かし、次期学習指導要領の方向性も視野に入れ、「主体的・対話的で深い学び」の一体的な充実を目指す研究を推進する。

III 研究推進のイメージ



IV 第14期までの研究の成果と課題

1 第14期研究指定校の成果と課題

第14期の2年間（令和5年度・6年度）の研究指定校であった宇和島市立明倫小学校と城南中学校は、「主体的・対話的で深い学び」の中でも、主に「深い学び」に焦点を当てて実践的な研究を推進した。両校の研究指定校の研究の成果と課題について、それらの一部を次に示す。

（○…成果、△…課題）

- 児童と共に「問い」を立て、児童の探究意欲が高まるような単元を教科等横断的にデザインすることで、児童が「問い」を自分事として捉えて一生懸命考え、解決のために協働する姿が多く見られた。
- 先行研究や様々な方の助言を生かして研究の計画を立て、部会を有効に活用して各教科の特性や教師の個性を生かしながら実践し、（中略）チームでトライ＆エラーを繰り返しながら、生徒の良い変化を生み出すことができたのが最大の成果である。
- △ 今後、個別最適な学びを更に充実させ、学習意欲が低く、理解に時間が掛かる児童も楽しみながら学べる授業の在り方を考えていきたい。
- △ 話し合い活動を充実させ、振り返りに十分時間を取り、新たな問いを立てさせると、今までの実践の省略化や簡略化が必要で、その取舍選択が適切なのか迷うことが多かった。

なお、詳細は『第51回愛媛県教育研究大会（発表大会）研究集録』を参照されたい。

2 「授業改善の視点・具体的な方策カード」の活用に関する成果と課題

令和元年に公表された「学習評価の在り方ハンドブック」（文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程センター）では、「主体的に学習に取り組む態度」の「②自らの学習を調整しようとする側面」に関して、「児童生徒が自らの理解の状況を振り返ることができるような発問の工夫」、「自らの考えを記述したり話し合ったりする場面の設定」、「他者との協働を通じて自らの考えを相対化する場面の設定」のような具体的な工夫の重要性が示された。これらの工夫は、第12期の研究において、「授業改善の視点・具体的な方策」カードの「D 粘り強い取組」や「E 振り返って自覚」の具体的な方策として位置付くことを確認し、実践に生かしてきた。

次に、第13期の実践から導き出された、対話の質をどう高めていくかという課題に対しては、「H 子どもと教師の対話」の具体的な方策の中で、対話を促す板書の構造化や教材の活用、抽象化⇄具象化の思考を促す切り返しや言い換えなどを明記し、共有を図った。

さらに、第14期の研究では、「L 解決策を考える」の授業改善の視点「問いを立てる」に関して、児童生徒から生まれた新たな疑問を、いかに次の学習に生かすかという課題が明らかになった。また、「N 見方・考え方を変える」の具体的な方策を授業に生かす工夫も求められた。

V 第15期研究の計画

大会主題『子どもが変わる教育の推進』～主体的・対話的で深い学びに向かう授業の創造～		
	1年次（令和7年度）	2年次（令和8年度）
大会	第52回愛媛県教育研究大会（統一大会） R 7. 8. 6（水） エスポワール愛媛文教会館 大ホール	第53回愛媛県教育研究大会（発表大会） R 8. 11. 5（木） 東温市立川上小学校、川内中学校
学校	・研究主題設定と推進計画 ・実践研究	・実践研究 ・研究成果のまとめ
支部	各学校の実践研究のとりまとめ→研究交流の一層の促進	
研究指定校	・県下2校（同じ管内）近隣校を指定 東温市立川上小学校 東温市立川内中学校 ・第52回愛媛県教育研究大会（統一大会）において研究の推進計画の報告	・会場校：東温市立川上小学校、川内中学校 ・第53回愛媛県教育研究大会（発表大会）において研究成果の発表 ・第15期の成果と課題の確認、今後の方向付け
本部	・基調提案（教研局） ・統一大会企画・運営 ・研究集録作成 ・第15期以降の研究体制の検討	・授業研究会企画 ・大会の反省 ・研究集録作成 ・第16期研究計画（指定校決定等）

VI 本年度の研究推進の留意点

1 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業や評価の改善と1人1台端末の活用の充実

「主体的・対話的で深い学び」やカリキュラム・マネジメントの視点から授業や評価の改善を行い、目指す児童生徒像へと学びの質を高めていく。また、1人1台端末の効果的な活用を更に充実させ、教科の学びを深めていく。

令和7年度～8年度の第15期には、東温市立川上小学校と東温市立川内中学校を研究指定校とし、「主体的・対話的で深い学び」の一体的な充実を目指す研究を推進していく。研究指定校の両校はもとより各校・各支部においても、上表「第15期研究の計画」に基づいて、大会主題とサブテーマの実現を目指すこととする。その際、「授業改善の視点・具体的な方策」のA～Oを、各校の実態に応じてアレンジして活用する。これらは、授業の展開や指導を構想する場合だけでなく、子どもの学習状況や教師の指導の効果などを評価する場合にも活用することが期待される。

このような愛教研の研究により、各校や各支部の研修の充実を図るとともに、教員の資質・能力の向上に寄与していく。

2 研究交流の活性化

同校種や異校種の学校間で研究推進に関する情報を共有し、学校相互の教育活動の更なる向上に努める。各支部においても、支部間の研究交流を促進し、支部相互の教育活動の更なる向上に努める。

3 教科等・専門研究委員会等の研究の推進並びに連携

教科等・専門研究委員会においては、これまで積み上げてきた財産ともいえる研究を継続しつつ改善を図るとともに、大会主題やサブテーマに迫るべく、研究推進計画の見直しを図り、実践研究に努める。その過程で、「授業改善の視点・具体的な方策」を活用し、それらの有効性や妥当性について発信することが望まれる。

また、各校・各支部においては、教科等・専門研究委員会や関係機関と積極的に連携し、教科等の本質を踏まえた研究実践や研究交流を進める。

4 愛媛大学教育学部との連携強化

「愛媛大学教育学部と愛媛県教育研究協議会との連携に関する協定」の締結後、研究指定校、教科等・専門研究委員会には、専門性の高い愛媛大学教育学部の先生方がアドバイザーとして配属され、研究推進に大きな成果を上げている。このような愛媛大学教育学部との連携を更に強化し、研究の深化を図る。

5 研究推進の周知

研究推進の内容や方法を県内各校に積極的に発信し周知することは、愛教研の研究及び各校、各支部の研究の活性化を図る上で重要である。愛教研及び各校・各支部のホームページ、グループウェア等、ICTを有効に利活用したり、郡市教科等委員長・専門研究委員長会や統一大会の場で伝えたりして、周知徹底を図る。

6 第53回愛媛県教育研究大会（発表大会）の開催

第15期2年サイクルの2年次の研究行事として、令和8年11月5日（木）に、東温市立川上小学校・東温市立川内中学校において、発表大会を開催する。本大会では、午前中は授業研究を通して研究指定校の研究の成果を確認する。午後は、研究指定校の発表やディスカッションにより、第15期の「主体的・対話的で深い学び」の一体的な充実に関する成果と課題を検証する。この内容が各校や各支部の研究推進に寄与するとともに、令和9年度以降の研究推進の指針となることを期待する。